

日本列島 離島巡り

今回は、琵琶湖に浮かぶ有人島、「沖島」(滋賀県近江八幡市)を巡っていきます。



沖島は琵琶湖最大の島であり、周囲約6.8km、面積約1.53km²、約300人の人が住んでいます。近江八幡市の堀切港から約10分、淡水湖の島に人が住む例は世界的にも少なく、貴重な島といえます。島内には車も信号もなく、ゆったりした時間の流れの中、島ならではの生活の知恵や豊かな自然が今も生きています。



沖島の歴史は古く、万葉集にも詠まれています。当時は琵琶湖の航行の安全を守る神の島として崇拝される無人島だったといわれています。人が住むようになったのは、保元・平治の乱に敗れた源氏の落ち武者が島を開拓し、定住したのが始まりと伝えられています。船での物流が盛んだったころは、京と日本海を結ぶ水運の重要拠点として栄えました。

現在、沖島の住民はその多くが漁業関連の仕事に携わり、琵琶湖の漁獲水揚げ量の約4割を占めています。ウナギやアユ、ワカサギ、フナ、エビ等が水揚げされますが、沖島で捕れるウナギは「びわ湖のむなぎ」として人気があり、最近増えているブラックバスを利用した「よそのコロッケ」も話題となっています。



4月上旬頃には、沖島桜まつりが開催されます。港周辺はもちろん、遠く比良山系を望む湖岸一帯が桜色になります。地元の沖島漁業協同組合婦人部「湖島婦貴(ことぶき)の会」が作るお花見弁当を食べながら、島時間を満喫するのはいかがでしょう。



ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号
TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184
URL <http://www.kokudo.or.jp>



2019年の地名変更情報 あんな地名 こんな地名

2019年度内に新元号である「令和」に因んだ地名の新設はありませんでした。しかしながら、住居表示や区画整理等により地名自体は多く新設されています。今回は2019年度の新設地名の中でも、特徴的な地名を紹介したいと思います。

千葉県流山市「おおたかの森北・西・東・南」

この地名の区域内には「市野谷(いちのや)の森」という森がありました。オオタカが生息する広い森でしたが、都内で働く人々のベッドタウンとしての開発が進んでいます。多くの人々が住むようになったことで住宅地が整備され「おおたかの森」を冠する地名が新たに設定されました。ちなみに「市野谷の森」の一部は保全されており、今もオオタカがやってくるということです。



富山県高岡市「IC(アイシー)パーク」

この地名は、高岡市内の産業団地の名称として設定されたものです。「インターチェンジ(Interchange)」 「産業の中核 (Industrial Core)」 「革新と挑戦 (Innovation and Challenge)」 の3つのキーワードに共通するアルファベット「IC」から付けられました。注目すべきは日本国内初の表記にアルファベットを含む地名であるということです。他にも高岡市には「オフィスパーク」「グリーンパーク」といった地名もあります。



石川県金沢市「観音町(かんのんまち)」「金石今町(かないわいままち)」など

金沢市では過去に存在していた地名を「歴史的文化遺産」とみなし、正式な地名として復活させる「旧町名復活事業」を推進しています。2019年には兼六園の北に「観音町1~3丁目」が、日本海に面した金石地区に「金石今町」「金石海善寺町(かないわかいぜんじまち)」「金石新町(かないわしんちょう)」といった地名が復活しています。



沖縄県中頭郡北中城村「字(あざ)ライカム」

この地名の区域内には元々「泡瀬(あわせ)ゴルフ場」という、米軍が建てたゴルフ場がありました。「ライカム」という不思議な名称も、かつて北中城村に存在した琉球米軍司令部 (Ryukyu Command headquarters) の略称です。ゴルフ場の営業が終了し、跡地に建てられたショッピングセンターの名前として既に使われておりましたが「覚えやすい」「親しみやすい」などの効果を期待し、正式な地名として設定されました。



